

【88】河川内の空港

富山空港は、富山市の中心街からバスで30分足らずで行ける便利な空港ですが、実は一級河川「神通川」（じんつうがわ）の高水敷に滑走路と駐機場（エプロン）が設けられています。河川しかも堤防の外側の高水敷は洪水時に洪水が流れるところですから、一般の旅客が大勢出入りする空港なんて、河川管理者の観点からすると危険極まわりない話です。高水敷上のグライダーや軽飛行機の滑走路は例がありますが、空港となると全国広しといえども富山空港だけです。

空港の立場からすると、河川の高水敷は、高い堤防が空港と市街地を明確に隔離し騒音も軽減してくれるので、たまに洪水が来るということを別にして、

立地条件は優れているのです。もちろんターミナルビルやその他の支援施設は堤内地側に在ります。

30年ほど前、国内便のみの地方空港だった富山空港にも、中国や韓国からの国際便が発着することになりました。今までは、富山空港にやってきた飛行機は、再び旅客を乗せて他の空港へ飛び立ち、夜間に高水敷に駐機しておくことは許されませんでした。人員の少ない夜間の出水を恐れてのことです。国際便となるとダイヤの都合上どうしても夜間の駐機の必要があり、許可してくれと河川管理者の建設省（当時）へ強い要望が出されました。河川局（現在、水管理・国土保全局）は大いに困惑しましたが、洪水時に飛行機を堤内地へ引っ張り上げるための幅広で勾配の緩い斜路を設置するという条件で了解しました。

以来30年、空港が浸水したり水没したというはなしが無いのは幸運ですが、最近ターミナルビルの屋上から眺めたら、斜路に一時のことでしょうが車や貨物が置いてあるのが気になりました。

北陸新幹線が開通したことやコロナ禍による海外からの観光客の減により空港の利用客が減っているようですが、早くかつての盛況を回復するよう期待しています。